

有料公演のご視聴について

下記の視聴サイトから視聴券の購入と、オンラインでのご鑑賞が可能です。

視聴券 ※視聴サイト「カンフェティ」からの受付となります。会員登録が必要です。

2022年度制作
(2作品セット)

1,000円(税込)

馬込文士村で活躍した人気女流作家を取り上げた2作品。

- 1.『千代と青児』 (劇団 山の手事情社)
- 2.『花物語ごっこ』 (日本のラジオ)

2021年度制作
(4作品セット)

1,500円(税込)

文士村を代表する作家による文学を、「映像演劇」という新しい手法でお楽しみください。

- 1.『おたふく』 (劇団 山の手事情社)
- 2.『白秋/木兎(みみずく)おじさん』 (Theatre Ort(シアターオルト))
- 3.『ヨビゴエ』～萩原朔太郎詩集「月に吠える」「青猫」より～ (日本のラジオ)
- 4.おどる小説『風博士』 (CHAiROI PLIN(チャイロイプリン))

同時
再販!

[視聴券販売期間]

2022年12月15日(木)～2023年2月14日(火) 23:59まで

※セブン-イレブン決済時の支払い締め切りは2023年2月15日(水) 23:59です。

[配信期間]

2023年1月21日(土)～3月16日(木) 23:59

※「視聴用URL」から、会員ID・パスワードでログインしてください。そのまま配信をお楽しみいただけます。

※配信期間中のお好きなタイミングで30日間(720時間)視聴が可能です。

※2021年度制作の映像作品は、視聴券販売開始日からご視聴いただけます。

[視聴サイト]

●Confetti Streaming Theater
(カンフェティ「カンフェティ・ストリーミング・シアター」)



視聴用URL

[DVD販売のご案内]

馬込文士村
空想演劇祭

2021年度 ¥3,500
2022年度 ¥2,500
※税込価格、送料別

※ご購入希望の方は、「特設ページ」を
ご覧いただくか直接お問合せ下さい。



[お問合せ]

公益財団法人 大田区文化振興協会 文化芸術振興課

TEL 03-3750-1611 / FAX 03-3750-1150 (大田区民プラザ)

ota_bunka otabunkaart 大田区文化振興協会 magomebunshiENGEKI

【主催】公益財団法人 大田区文化振興協会 大田区 【後援】特定非営利活動法人 大田まちづくり芸術支援協会(asca)
【協力】一般社団法人 大田観光協会 特定非営利活動法人 大森まちづくりカフェ 馬込文士村ガイドの会 特定非営利活動法人 馬込文士村継承会
【機材協力】キャノン株式会社 【制作協力】劇団 山の手事情社 【表紙イラスト】光嶋フーバイ 【デザイン】明里笑店LLC.



OTA 7-ト・プロジェクト

馬込文士村 空想演劇祭

2022

かつて、東京都大田区に存在し、

名だたる近代文学作家達が集った「馬込文士村」。

文士村にゆかりのある作家の作品を、「映像演劇」として、

オンラインで鑑賞する新しいカタチの演劇祭。



演劇祭
特設ページ

馬込文士村 空想演劇祭 2022

撮影はすべて大田区内で行ないました。「空想」という言葉には、映像を通して実演の舞台をイメージし、
現在ではほとんど面影のなくなった当時のまちなみや文士達の交流・暮らしぶりを想像してほしいという気持ちが込められています。

[アートディレクター] 安田雅弘(劇団 山の手事情社 主宰・演出家)

演劇 1

『千代と青児』

作品時間:約20分 **有料**

[劇団 山の手事情社]

作家・宇野千代と画家・東郷青児は、出会ったその日に同棲を始める。実は一見スキャンダラスなその遭遇には、それぞれ表に出せぬ事情があった。しかしやがて二人の関係は熟成していく。

【原作】宇野千代 【構成・演出】安田雅弘
【出演】越谷真美 山本芳郎 川村 岳 中川佐織
【衣裳】綾 【選曲】鹿沼玲奈 【カメラ】鈴木正実 【音声】土方裕雄
【撮影会場】「ニューエイト」



劇団 山の手事情社

日本の現代演劇を代表する舞台芸術集団。1984年、早稲田大学の学生を中心に結成。以来、一貫して実験的な舞台を通して、現代演劇の姿を模索。公演活動の他に、さまざまなワークショップや講座にも力を入れている。国内での活動以外に、海外での公演も積極的に行なっている。2013年より、東京都大田区に専用稽古場を兼ねた劇団本部がある。

安田 雅弘 (Yasuda Masahiro) 劇団 山の手事情社 主宰・演出家・「馬込文士村 空想演劇祭」アートディレクター

東京生まれ。早稲田大学在学中に劇団を結成、日本の現代演劇を代表する劇団の演出家として、国内外で評価されている。2013年ルーマニアのシビウ国際演劇祭より「特別功労賞」を受賞。さまざまなワークショップの講師もつとめ「自分を魅力的に見せる多方面にわたるヒント」としての〈演劇的教養〉を一般社会で活用することにも力を注いでいる。2018年「魅せる自分のつくりかた」(講談社選書メチエ)を上梓。

演劇 2

『花物語ごっこ』

作品時間:約20分 **有料**

[日本のラジオ]

少女小説の大家 吉屋信子のデビュー作『花物語』の第一話「鈴蘭」を題材に、女学生たちの交流を描いた作品。誰しもの心の中にある少女性を、その不思議な世界観で表現。

【原作】吉屋信子 【構成・演出】屋代秀樹
【出演】沈 ゆうこ(日本のラジオ) 館山サリ 中村ナツ子
【衣裳(女学生制服)】えいり(ネバアランド) 【カメラ】鈴木正実 【音声】遠藤 悟 土方裕雄
【人形提供】人形作家・関口直子
【撮影会場・協力】建築家・山口文象自邸「クロスクラブ」



日本のラジオ

読み方は「にほんのらじお」。2006年旗揚げ。代表である屋代秀樹が自作の戯曲を上演するため立ち上げ。劇団キャッチコピーは「さわやかな惨劇」。文学作品(近年は「少女地獄」や「駈込み訴え」)や実際にあった事件(「津山三十人殺し」や「オウム事件」など)をモチーフとし、シンプルかつ象徴的なアートワーク、俳優の魅力を生かした個性的なキャラクター、余白のある冷めたセリフが特徴。

屋代 秀樹 (Yashiro Hideki) 脚本家・演出家・日本のラジオ代表

千葉県出身。國學院大学日本文学科卒。大学卒業後に演劇を上演する任意団体「日本のラジオ」を旗揚げ。以降、主催団体の全作品の脚本とほとんどの演出を担当するほか、外部団体への脚本提供や演出も手がける。作風はコメディ、ホラー、怪奇、サイコ、ノワール、不条理コトなど、主に負のベクトルに幅広く、また、「馬込文士村 空想演劇祭」参加作品以外にも、夢野久作や太宰 治など、文学作品を再構成した作品も多く発表している。

スタンダップ コメディ

『馬込の文士2022』

無料

[清水 宏]

馬込文士村では、多くの女流作家たちが活躍していました。今年度は宇野千代と吉屋信子に着目し、スタンダップコメディアン 清水 宏が、独自の目線でその人物像をアツク語ります!

【出演・脚本】清水 宏 【構成・演出】安田雅弘
【照明】田中稔彦 【衣裳】綾 【カメラ】鈴木正実
【撮影会場】大田文化の森 多目的室

清水 宏 (Shimizu Hiroshi) 俳優・スタンダップコメディアン

80~90年代にかけて劇団 山の手事情社に在籍し中心的俳優として活躍。2016年、ぜんじろう、ラサール石井とともに「日本スタンダップコメディ協会」を設立し、会長に就任。国内はもちろんエンジンバラフリンジフェスティバル、北米フリンジフェスティバルをはじめ、中国、ロシアなど、現地の言葉でコメディを敢行し、世界中をハイテンションと大汗で笑いに巻き込んでいる。



「馬込の文士2021」より

配信は
こちらから



大田区文化振興協会
YouTubeページ

1月中旬
から

大田区文化振興協会 YouTubeチャンネルにて
配信開始!!

作家紹介

宇野 千代 (小説家) 1897-1996

山口県生。懸賞小説で「脂粉の顔」が選ばれたのをきっかけに、作家として活躍。また、スタイル社を初創し、日本のお洒落雑誌『スタイル』を発行する。ただし活動の重点は作家業に置き、「色ざんげ」、「おはん」などの作品を発表した。

[大田区在住期間] 大正12年(1923)/26歳のころ~昭和21年(1946)/49歳のころ

吉屋 信子(小説家) 1896-1973

新潟県生。20歳の時、雑誌『少女画報』に連載された『花物語』の連載が人気を博す。その後、大阪朝日新聞の懸賞に「地の果まで」が入選し、本格的に文壇デビュー。「徳川の夫人たち」などの歴史小説でも知られている。

[大田区在住期間] 大正10年(1921)/25歳のころ、大正14年(1925)/29歳のころ

■撮影スタッフ [映像ディレクター・編集]米本直樹 [撮影監督]鈴木正実
■全体進行 [統括]小笠原くみこ [アシスタント]福富はつみ 河合達也 鹿沼玲奈